

令和7年度 教育研究の概要

1 研究主題

気づき、考え、表現する児童生徒の育成（3年計画の第2年次）
～ 伝え合う授業づくりの工夫 ～

2 研究主題設定の流れ

本校の児童生徒の多くは、自分の考えや思いを伝えることが苦手である。その実態を改善するために、研究主題を1年次は、「気づき、考え、表現する児童生徒の育成～伝え合う場面を設けた授業づくりを通して～」とし、小中一貫校の良さを生かし、教科の垣根を超え、みんなでできる研究を全職員協同して進めた。

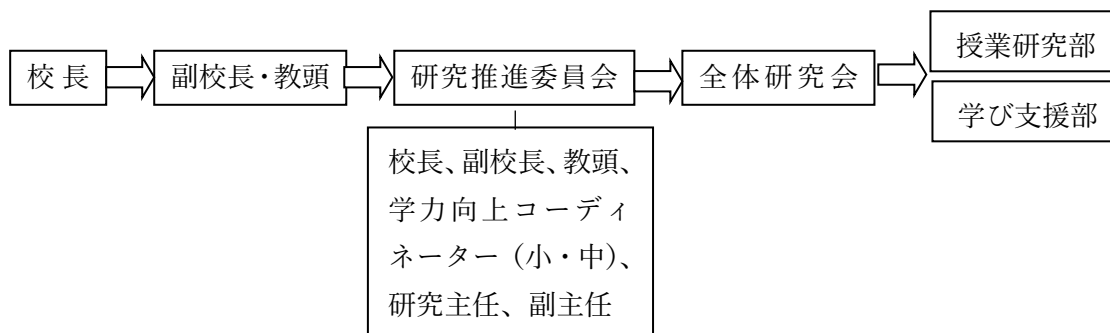
昨年度（3年計画の第1年次）の研究の取り組みとして、児童生徒が自分の考えや思いをきちんと言葉にして表現できるようになるため、「自分の考えをもち、伝え合う場面を設けた授業づくり」に全職員で取り組んだ。「伝え合う場面を設ける」ことを意識して授業改善に取り組んだことが児童生徒の「自分の考えを表現する力」の向上につながった。

しかし、中には「自分の考えをもつことができない」、「あっているか心配で書くことができない」、「進んで発表できない」と思っている児童生徒がいた。故に、表現することを苦手としている児童生徒に寄り添い、有効な手立てや支援を試行しながら、取り組んでいく必要がある。また、自分の考えを伝えるだけにとどまらず、「相手の意見を聞いて自分の考えを確実にしたり、相手の考えを取り入れ、深めたりすることができる児童生徒」を育成するための具体的な手段を試行・検討することも大切である。そして、その結果の共有を図りながら、今年度の研究につなげる。指導者が「児童生徒の変容を見ながら、『伝え合う授業づくり』の手だてを講じる」ことで、「自主的に自分の考えを持ち表現する児童生徒の育成」が期待できる。以上の理由から、上記の研究主題設定をした。

3 研究の目標

気づき、考え、表現する児童生徒の育成を目指すために、伝え合う授業づくりの工夫の在り方を探る。

4 研究の組織



5 研究内容と方法

(1) 「気づき、考え、表現する児童生徒」の育成

- ①研究構想図をもとに目指す児童生徒の姿と研究の進め方（3 カ年計画）の共通理解
- ②北山校授業モデルの活用の改善・共有（p5 参照）
- ③「北山思考スキル」活用の改善・推進 → 「1.5 往復（1 往復半）の意見交流」を行う（p6 参照）
- ④授業見学週間の実施（年2回）
- ⑤講師招聘による授業研究会の実施
- ⑥「伝え合う授業づくりの工夫」の実践

（ア）単元や授業における伝え合う場面設定の工夫

- ・単元や授業の中で、どういう目的で、どの場面に伝え合う場を設けるのか。
→（例）学習・単元のまとめなどの場面で討論を設ける（学期に1回程度）
- ・自分の考えや意見を発表することが苦手な生徒が、自信をもって伝えることができるようになるためには、どのような手立てが必要か。
- ・自分の考えや意見を相手に分かりやすく説明したり、相手の考えを自分の考えに取り入れたりしながら伝え合い、伝え合うことの喜びや意義を見いだす。

（イ）授業実践シートの作成、交流（1 学期末、2 学期末）

◎考えをもち、伝え合う場面づくりの例（R6 年度の実践より）

- ・単元を貫く問いをたて、単元の最後に交流する。（中学部社会）
- ・立場を決める時間を取り入れ、その立場を選んだ理由を書かせる。（小学部国語）
- ・相手意識、目的意識をもたせる。（小学部社会）
- ・説明文や意見文・提案文を単元のまとめの時間に、キーワードを使って字数制限・時間制限を設けて書かせる。（中学部社会）
- ・児童生徒が自分の考えを整理したり、発表に対するハードルを下げたりするための手立てとして、全体での交流の前に、「ペアでの意見交換」や「グループでの交流」などの活動を取り入れる。（小学部・中学部全教科）
- ・口頭で発表することが苦手な生徒への手立てとして、タブレット端末を用いて意見を投稿するなどの活動を取り入れる。（中学部道徳）

⑦ 「気づき、考え、表現する児童生徒」の育成のための、学びの支援の充実

→学力向上との連携、「家勉強がんばろう週間」の計画および実施

(2) 代表授業、授業研究会の実施（小学部、中学部からそれぞれ1本）

(3) アンケートの実施

- ①現状把握（6月）…児童・生徒対象アンケート、職員対象アンケートを実施し、結果報告
- ②変容把握（12月）…児童・生徒対象アンケート、職員対象アンケートを実施し、結果報告
- ③実践の成果と課題を共通理解し、次年度へつなぐ